

農業振興活動

(1) 集落・地域の担い手への対応強化

地域農業を支える担い手農家や集落組織への支援を行うため、営農経済渉外担当係（TAC）が中心に生産コスト低減へ向けた提案及び情報提供を行い、農業経営の安定と所得向上につとめました。

(2) 地域特産物の生産振興への取り組み

丹後産コシヒカリに続く地域銘柄を確立するため、亀岡・南丹地域で行政と連携した「京都丹波米良食味推進協会」を設立し、毎月の情報誌の配布やメールによる情報発信を行うとともに、お米祭を開催し良食味米をPRしました。

また、京野菜については、生産者部会活動を重点に置いた活動支援を行い、首都圏を含む販売促進活動や視察研修による情報収集を行い、京都ブランドの品質向上と合わせた安定生産につとめました。特産品の黒大豆については、新たに丹後地域でのブランド認証を取得し、有利販売と生産拡大につとめました。

(3) 自給率向上のための水田農業への取り組み

地域水田農業推進協議会と連携し、水田等有効活用促進対策や農商工連携対策を活用した飼料用米、米粉用米等の新規需要米に取り組みました。

(4) 営農施設の取り組み

水稻育苗センターでは、管内4ヶ所に配備した温湯消毒機を活用し、「安全・安心」の米づくりと環境への負荷を軽減する種もみ処理に取り組みました。

共同乾燥調整施設においては、利用者の期待に応えるため施設整備を行い、品質の向上と利便性につとめました。

(5) 生産農家と消費者を結ぶ取り組み

地産地消の拠点とする農畜産物直売所「たわわ朝霧」では、京都ブランドの優位性を最大限活用した新鮮で安心な農畜産物の供給と今搗き米の対面販売を行い、「食」と「農」を結ぶ掛け橋、消費者との交流の場として地域をはじめ府外からも多くの方にご利用いただきました。

(6) 健全な食と農を伝える取り組み

組合員の健康維持や管理のため、料理教室の開催、農業体験や地場産農産物の提供といった食農教育活動を協力組織参加のもと、積極的に取り組みました。

酪農センターでは牛乳の加工販売事業を行っており、地元の保育園や小学校へ牛乳の供給を通じて、児童の発育や健康増進に貢献しています。